

9月定例会

陸別町議会9月定例会は、9月5日から13日まで、その内の4日間開かれました。今定例会では、委員の選任2件、委員の任命1件、規約の変更1件、条例案2件、補正予算案4件、意見書案1件を可決し、令和4年度決算全7会計を全て認定し、閉会しました。

陸別町ケア付き一時住まい事業実施条例可決

《介護や見守りが必要となった町民が利用できるケア付き一時住まい》

新築のしらかば苑内に設置する施設で行う事業ですが、終の棲家ではなく、本人・家族がその状態に見合った入居・入所施設などを探している間、一時的な居所を確保するためにサービスを提供する場合、入居定員は5名です。

対象者は、陸別町に住所を有する者で、次のいずれかに該当する認知症の診断のない者。

(1)在宅において何らかの要因で介護や見守りが必要になった者

(2)現状では介護サービスを利用しても在宅での生活が難しいと認められる者

(3)一時的に施設等での介護がなければ生活ができないと認められる者

(4)その他、町長が認める者

サービスの提供内容

(1)一時的な生活の場の提供
(2)入浴、排泄等の個人に必要な介護の提供

(3)食事の提供

(4)洗濯、掃除等の家事の供与

(5)健康管理の供与

(6)安否確認及び状況把握

(7)各種生活相談及び助言

(8)その他町長が特に必要と認めるもの

利用者の負担

収入に応じた区分により、

利用料及び食費等の実費を負担



要介護1、

2の人達が安心して住める施設だと思っただが、敢えて一時住まいとして概ね6か月の入居で事情があれば延長できるという説明があったが、安心して住めるようにして欲しい。



一時的な住まいという点もあり、目安として6か



▲ しらかば苑の3階に設置された「かっこうの家」の居室

● 入居に関する詳細については、保健福祉センターにお問い合せ下さい。

月としているが、入居される方の心身の状況や、置かれている環境なども総合的に勘案し、弾力的に運用できるように進めていきたい。

陸別町子育てステップアップ

応援給付金支給事業

～15歳・18歳時に子ども1人につき10万円～

●子育てステップアップ

応援給付金事業

300万円

町の未来を担う子ども達が人生の節目を迎える15歳時（中学校卒業）及び18歳時（高校卒業等）において、



新生活へのステップアップを応援し、子育て世帯の経済的負担の軽減を目的として、10万円の給付金を支給する。

支給対象者は、対象年齢の子どもを養育している保護者等であり、1月1日において、保護者等と養育する子どもの住民登録が陸別町にあること。ただし、18歳時支給については、養育している子どもが陸別中学校を卒業している場合に限る。その子どもの住所地は問わない。

また、町税等を滞納していないことが条件となっている。

支給時期は、3月上旬から中旬を予定している。

補正予算質疑から



8月11日から火葬場の火葬炉が故障したということだが、今は一時的な復旧で利用はできるのか。また、修理にはどのくらいの期間がかかるのか。



▲平成20年度に完成した火葬場



現在は応急的に改善しているが、予断を許さない状況である。必要な部品の調達に相当数の時間を要することから、年度内いっぱいかけて修繕を行う予定である。

令和5年度 各会計補正予算

会計名		補正額	総額
一	一般会計	6,936万円	53億 6,640万円
特別会計	国保直診勘定	472万円	3億 4,576万円
	簡易水道事業	436万円	1億 9,375万円
	介護保険事業勘定	3,078万円	3億 1,405万円

令和4年度 各会計決算を認定

～ 主な質疑・答弁 ～

9/12

●ふれあいの湯利用料

Q 公衆浴場協会が値上げした時に、当町は450円で据え置きしているが、利用料収入が少しずつ減少していることから、町民割引などで多くの町民に利用してもらおう考えはないか。

A 昨年10月に公衆浴場統制額が30円値上がりしたが、政策的判断で据え置きとし現在に至っている。公衆浴場の在り方について、内部で研究しながら今後の料金設定などについては検討したい。

●出産祝い金事業

Q 第4子からは100万円のお祝い金で、子育て支援の目玉となっている対策だが、子どもを何人育てるかや家庭の事情があると思うので、実際に出生率の増加に繋がっているか不明だと思う。

切れ目のない子育て一環として、新しい政策でステップアップ応援給付金事業を

とても評価している。子育て祝い金を精査し、ステップアップ応援給付金事業を拡充していく考えはないか。

A 出生に繋がっているかどうかを検証することは難しいが、そのようなご意見が出てくるのであれば検討材料にはなるが、出産祝い金を減らしてステップアップ応援給付金を増やすという考えはない。

●学校給食関係

Q 学校給食の賄材料は、3割ぐらいしか町内で購入していない。まだまだ町内で購入できるところがあると思うが、その辺の努力はどのようになっているのか。

また、町の役割として、町内業者から購入することが基本だと思う。地元食

材を給食に使うよう心掛けていたきたい。

A 町内の事業者と協議をしながら進めているが、基本的に当日の朝、納入していただき新鮮なものを活用したいが、給食センターで使う量を調達するのが難しくなったり、単価的な問題もある。

町内業者と十分話し合いを進めながら、お互いにとっていい形で進められるよう、今後も努力していきたい。



▲ 陸別町で提供された学校給食

令和4年度 各会計の決算の状況

(単位：万円 千円以下端数処理)

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引余剰金	繰越明許費繰越額	一般会計からの支援額	実質に近い収支
一般会計	55億9,663	55億 169	9,494	209	0	9,284
特別会計						
国保事業勘定	3億2,605	3億2,562	42	0	0	42
国保直診勘定	3億2,926	3億1,726	1,200	0	1億4,590	△1億3,390
簡易水道事業	2億 256	1億9,404	852	0	2,345	△1,493
公共下水道事業	1億2,748	1億2,563	185	0	3,172	△2,987
介護保険事業勘定	3億2,337	2億9,259	3,078	0	0	3,078
後期高齢者医療	4,770	4,658	111	0	0	111

一般質問

9月定例会では4人の議員が一般質問を行い、町政を問いました。その内容を要約して掲載します。

診療所体制と

福祉環境について

渡辺三義 議員

問 本町は医療機関として歯科診療所と国保関連診療所があり、地域密着型として運営されている。現在、国保直営診療会計は厳しい現状にあるが、今後現況維持でいくのか。また、スタッフ不足についての対応はどの様に考えているのか。

問 今年5月より感染症法上の第2類から第5類に移行されたが、診療体制の枠組みはどうなっているのか。

ら訪問してトップセールスをしていく。

町長 唯一の医療機関である診療所と考えるので、厳しい運営現況は把握しているが、今は現状を維持していきたい。また、看護師不足については、今後、帯広高等看護学院等に自



▲ 感染症対策をして業務に当たる診療所看護師

また、一部の町民より苦情等がある発熱外来等において、診療体制はどうなっているのか。それと最近の発熱外来等の受診者数について伺う。

町長 現在まだ新型コロナウイルス感染症は終息しておらず、診療体制は従来どおりとしている。また、発熱外来については、感染症のことも考え基本的に電話予約としているが、連絡なしでも状況把握をして臨機応変に対応している。発熱外来の受診者状況は、7月は39人、8月は38人と、まだ気の許せない状況にある。

問 緊急通報システムの設置状況やアラート及び愛の鐘放送による災害時の町民への連絡体制について、最近の公住及び民間住宅は気密性も高く、特に高齢になると耳も遠くなり、難聴でスピーカー等の音が聞き取れない等の不安の声もある。他町村においては、不安のある方には自宅に小

型個別受信機を設置する対策が取られているが、本町は設置する考えはないか。

町長 愛の鐘放送は、風音等もあって100%充実した環境にはないと思っている。

小型個別受信機の設置には約1億1千4百万円、光ファイバー網活用で約2億円の事業費となり、補助金等がないなど過去の様々な議論の結果、防災無線愛の鐘のデジタル化や野外スピーカーの設置等に1億2千万円弱を投資し平成29年から4年を掛けて整備してきた。今後については広報車等も用いて対応したい。

また、緊急通報システムは、現在21名の方が利用されている。



ここが聞きたい



生乳生産抑制下の

農業振興対策は

工藤 哲男 議員

問 3年が経過した第6期町総合計画の「農業生産基盤の充実」に関し、

昨今の状況を乗り切るため見直しと新たな施策があるのか。生乳生産抑制下だからこそ良質粗飼料確保のため、草地更新に対し更なる補助をすべきではないか。

町長 町総合計画は10年後の目指すべき姿であり、

この間の想定外の出来事にも対応すべく農業支援を実施している。更なる支援については、タイムリーなときに生き金を使って政策として対応する。簡易草地更新への補助は、農協・中山間陸別集落・普及センターと協議を行い現状把握に努めたい。

問 農作業のアウトソーシングは、効率化によ

り経営の安定と過重労働や女性の負担軽減を図る施策だが、農業経営の体質強化に向けた支援策はどうするのか。

町長 アウトソーシングに

対する補助は難しく、応分の負担を得ながら進めるものと考えている。酪農ヘルパー事業への助成は続けていく。行政として困難なことは国へ要望をし、町のできることを分けて進めたい。

問 農家戸数を増やし、

生乳生産増を目指すためには、新規就農者確保対策は必要である。また、農業従事者不足により農業後継者の過重労働にならないような対策と将来的なパートナー確保も大きな課題だ。以前役場内に後継者対策室があったが、新規就農者確

保・後継者対策・労働者対策・外国人労働者対策等の窓口として、今、設けるべきではないか。

町長 新規就農者の希望に

添う受入環境づくりは必要なので農協と協議する。相談窓口についても民間事業者を活用した近隣町村の例を参考にしてみよう。整理したい。後継者対策室の設置は、今は回答できないのでご意見として伺う。

問 飼料用トウモロコシ

と草地の被害額は、町内で年間約1億円を超える。鹿柵補修は多額の費用を要するため、猟友会との協議のうえ駆除頭数の増頭を図り、銃弾や燃料費が高騰する中、負担軽減として駆除奨励金を引き上げられないか。

また、発想の転換として、駆除を兼ねた鹿牧場を設置し、町特産の鹿ジシギスカン等で新たな産業とすべきではないか。

町長 鹿柵の大規模改修は、

国の事業を活用するための調査をしている。駆除頭数の件は、猟友会と処理方法も併せて協議を進めたい。鹿牧場は設置数や費用も考え、被害額に見合った政策として議論が必要。駆除と養鹿事業と分けて考えると養鹿事業は地場産品に必要な頭数の確保が、駆除は夏のレンダリング施設が必要となる。また、駆除した鹿の運搬方法や費用が生じるので、駆除後の出口対策の検討を要する。町全体の政策として詰めて、国にも要請していく。



▲ 飼料用デントコーンの収穫作業

2024年問題に関する

町発注事業の対策について

濱田正志 議員

問 2024年より時間外労働の上限規制が適用されるが、当町においても該当事業所が多数あると思われる。労働時間の縮小で収入低下が起こる可能性があることから、職場環境を変える要因となり、離職ということも考えられる。各事業所は企業努力により対応しているが、昨今の材料費高騰などもあり、なかなか厳しい現状にあると思う。町が発注している事業は、町内のインフラ整備なので町民の生活に必要な事業として考えている。働き方改革を踏まえて事業に見合った工

期設定をした場合、事業費の積算など来年度の予算編成についてどのように考えているか。

町長 働き方改革、等々の件についてであります。働き方改革実行計画に



▲ 町発注の合同墓建設工事現場

ある建設業については「適正な工期の設定、適正な賃金水準の確保、週休二日の推進、休日の確保」というのが推進されている。当町においても国の指針に従って工期の設定を行っていく。資材高騰への対応は、発注時においても北海道の積算基準を参照して見直すなどその都度対応していく考えである。

地域おこし協力隊の採用について

問 現在まで陸別町には何人もの地域おこし協力隊が採用され、任期を終えて起業されている方もおり、町のPRに多大な貢献をされている。今後の町の活性化には外部からの手助けは必須であり、新たな気づきもあって良い刺激になると思う。現在、全国の地域おこし協力隊は20〜30代の方が多くを占め、約60%が定住されているというデータもあるので、農業支援の

一環としても非常に有効だと思う。今後、地域おこし協力隊の採用を再開する考えはないか。また、募集のプラン策定を民間に委託する考えはないか。

町長 現在は確かに募集していないが、今後もしないという訳ではない。募集したものの過去2年間応募がなかったため、現在は休止している。その理由としては、3年後に任期満了した際、定住してもらったためのプランを先に作らなければいけないと考えている。当町の実態としては、全国平均の定住率より低くマッチングがうまくいかなかったと考えている。この現状を打開するため、こうした地域おこし協力隊が来てくれて、町を盛り上げてくれるかを考えている。また、行政だけでなく民間からのプランも検討の余地があると思う。農業支援に限っては、町からの支援が手厚い新農業人育成に関する補助事業を推奨している。

陸別町ゼロカーボンシティの

実現事業について

谷 郁司 議員

東日本大震災以降、原子力発電所の稼働停止や地球温暖化で、社会的にも自然エネルギーを重視したゼロカーボン政策が重要になり、町も今年3月にゼロカーボンシティ宣言を行った。町の財政負担を軽減するため、交付率が4分の3と有利な環境省の地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用することで、持続可能な町づくりとしてゼロカーボン実現に向け取り組むべきであり、次の具体的な施策について伺う。

問 既存住宅に太陽光発電と蓄電池をセットで補助する事業、また、防寒対策として窓枠交換や2重ガラスにすることへの補助の考えはないか。

答 町は平成24年から住宅用太陽光発電システムの導入に補助を行っており、また、防寒対策としても利用できる移住定住促進住宅建設等補助金もある。



問 当町のバイオガスパラントは稼働したが、軌道に乗るにはいろいろハードルがあると聞いている。当町は8割が森林であり、町内には全道でも指折りなチップ工場もあるので、チップをバイオマスとして

公衆浴場の熱源として活用できないか。

答 バイオガス施設の維持は厳しいのが現実で、今後の方向性を探っている。木質バイオマスは、熱効率の問題のほか設備投資や運搬、担い手などコストと財源問題を両立して解決しないと前に進められない。

問 日産自動車に限って新車購入費の助成を行っているが、脱炭素の観点から電気自動車を購入するとき、他社メーカーの車にも助成してはどうか。

答 道の駅にある充電設備を利用した電気自動車は、昨年度で50時間程度であり、充電設備などの整備も進んでいないため今後の流れを見たい。ラリー北海道で来町したトヨタ自動車の会長は、小さな町を盛り上げたい気持ちがあると話されていた。ラリーの歴史をみるとスバル自動車などの協力もあるので、ゼロカーボンシティ実現に向け

て、他社メーカーへの助成は頭に入れておく。日産テスラコースができてから35年が経過した。この間、町は日産から長きにわたり地域振興に支援をいただいていた。このことに特段のこだわりを持っている。

問 ゼロカーボンシティ実現に向けた計画作成の際、環境省の地域人材支援策の交付金を活用して取り組んではどうか。

答 来年度策定予定の地球温暖化実行計画（区域施策編）は、補助制度を活用し外部委託して進めるが、その後は、状況に応じて対応したい。

問 仮称、陸別町ゼロカーボンシティ推進協議会と再生可能エネルギー推進基金の創設を早期に取り組み考えはないか。

答 協議会を作るかは今のところ未定であるが、基金については来年度の創設に向け準備している。

員会行政視察報告

大樹町プール及び
しらかば苑新施設と
一時住まい施設かっ
このの家

総務常任委員会

委員長 濱田 正志

① 大樹町プール視察

(令和5年9月25日)

現在、当町の水泳プールは老朽化による建て替えも含め、町として様々な検討がされている。その

中で当町と同程度の施設を昨年建設し、今年度より運用開始して約半年が過ぎた大樹町の水泳プールを視察した。

当委員会が事前に取りまとめた質問に対して回答を受け、その後、実際にプールの視察を行った。温水プールは太陽光発電のほか、木質チップを燃料とした木質バイオマスボイラーを熱源として利用し、



▲今年度から供用開始した大樹町のプール

二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの地域循環を目指していた。今後の人口動態を見込んで施設規模を縮小したものの、幼児・低学年用、一般用レインのほか歩行用レインがあり、全年齢対応型の素晴らしい施設であった。木質バイオマスボイラーは夏季は温水プールに、冬季は役場など公共施設の暖房として、非常に効率的に利用されていた。

当町の施設整備も今後の町づくり計画の一環として、どのような設備が必要か、費用対効果などを詳細に精査する必要があると感じた。水泳プールは教育の一環として重要性も高く、今後の検討の貴重な情報収集となった。

② しらかば苑新施設見学

(令和5年9月29日)

しらかば苑の建て替えにあたり、町は多額の建設費用を負担をしているため、当施設の今後の運用方法等を注視しており、今回は一般公開に合わせ視察を行った。

しらかば苑施設長から、今後の運用方法、人員体制、施設の安全対策、一時住まい施設かっこの家の設備等について詳しい説明を受け、各委員からの様々な質問に回答をいただいた。新施設は新聞報道のとおり、十勝管内でも最新の設備を取り入れた



▲入所の方が食事や談話を楽しむスペース

施設となっており、利用者も安心安全に過ごせる施設であると感じた。介護従事者の負担軽減を考慮してITを活用し、リアルタイムに情報を共有できるシステムも導入されており、入居者と職員双方のことを考えた施設であった。少子高齢化が進む中、当町においても重要な施設であり、健全な施設運営が求められるため、今後も運用方法等について注視していく。

総務・産業常任委

大樹町サンエイ牧場
バイオガスプラント
視察報告

産業常任委員会
委員長 工藤 哲男

産業常任委員会は、令和5年9月25日に大樹町にある㈱サンエイ牧場を視察した。

視察に至った経緯は、当町のバイオガスプラント（メタン発酵設備）において掛かる経費を最小限にして、発電以外の更なる副収入を得る方法がないかを探るためである。

㈱サンエイ牧場ではバイオガスプラントから取り出したバイオガスを、北海道の総合ガスメーカーグループに供給・販売し、液化天然ガスの代替燃料となる液化バイオメタンガスに加工し、域内でエネルギーを生産消費する地域循環型のサンプライチエーンモデル牧場として携わっている。
この牧場は乳牛飼養頭数

約2500頭、耕作面積710haで、令和4年度の生乳生産量は約1万7千トンと十勝でも有数の大規模牧場であり、バイオガスプラントは2回に渡って建設された。1基目は平成24年のF-I-T制度（固定価格買取制度）の初年度に建設され、1時間当たり300kwを発電し今年で10年が経過した。

2基目は令和4年度に完成、令和5年5月から環境省の補助事業「未利用バイオガスを活用した液化バイオメタンサンプライチエーンモデル実証事業」に参画し、未売電でバイオガス供給のみの新たなエネルギー開発モデル牧場としても携わっていた。バイオガスの供給契約は1年ではあるが、同牧場としては当面ガス供給協力者として続けるとのことである。

しかしながらバイオガス供給販売は価格が安いいため、2基目のプラントについては、発電・売電を行う場合は、出力制限条件付き売電

（ノンファーム型接続）ではあるが、バイオガス供給販売から売電への移行は捨てがたく、いずれ稼働を考えていた。

当初、バイオガスプラント導入の動機は糞尿の悪臭対策であったが、プラント稼働後の消化液は悪臭も少なく良質な肥料として圃場へ還元することができ、肥料価格高騰もあり化学肥料の削減につながった。現在は自然環境に配慮した酪農を目指し、化石燃料ではなくバイオガスという再生エネルギー導入により、循環型農業に貢献することを目指している。

当町のバイオガスプラントは、冬期間でも1時間当たり720kwの発電を達成して順調に推移、消化液は悪臭も少なく圃場

に還元しており、発電環境の面でカーボンニュートラルを実践している。今後の取り組みとして、発電に必要なバイオガス以上の余剰バイオガスを生産し、北海道の総合ガスメーカーグループとタイアップしながらバイオガス供給・販売を前向きに検討するべきである。



▲メタンガス実証実験のため、ガス会社職員による充填作業



陸別中学校3年生が模擬議会を体験

～中学生の想いを町政に～

中学生模擬議会が10月2日に議場で行われ、次代を担う中学生が模擬議会の体験を通して、地方自治の仕組みや町議会の役割などを学びました。

緊張した面持ちながらも、代表者が議員席から「道の駅にゴミ箱の設置」「町の活性化」「観光施設の修復」「企業誘致」「道の駅にパン屋の併設」「駅前広場への遊具設置」などについて質問し、町の管理職等が分かりやすく答弁しました。



◀ 議員席に座る中学3年生



▲ 中学生からの質問に濱田委員長が回答

総務常任委員長に 議員の仕事等を質問 【陸中議員来校】

陸別中学校の5時間目の授業において、生徒からの質問に議会議員が回答する「議員来校」が8月28日に行われました。

生徒からは、『どうして議員になろうと思ったのか』『議員として仕事のやりがいは何か』『陸別町の何を主に話しているのか』等々の質問があり、濱田総務常任委員長が生徒からの質問に対して、真剣な表情で回答していました。



《町長より一言》

今日、皆さんに言っていたことは、すべて陸別が直面している問題だと思います。すべてをやってあげたい気持ちは同じですが、どうしてもお金の問題にぶつかってしまうことを、ほんの少しでも理解してもらえれば次の発想へと繋がっていくと思っています。

町づくりで一番大事なものは目線です。皆さんの目線は素晴らしく改めて勉強になりました。そして町づくりの究極は皆さんが笑顔になることだと思っています。



生徒代表挨拶
畠野 蓮綺 さん

本日の模擬議会を通して、議論の仕方などを改めて学ぶことができました。

今後、もっと町のために何かできることはないかと考えて、町民として色々なことができたらいいなと考えています。



模擬議会を終えて 3年A組 **角田 華子 さん**

昨年度より、陸別をより良くするためにどんなことがあるかを考え、資料による具体的な根拠をもとに現実味のある提案ができたと思います。私達の意見は、今すぐ実現することが難しいようでしたが、町のことを決める際はそれほど慎重に決めなければならないことを実感しました。町の政治に触れることができよかったです。

条例・その他の審議結果

件名	審議結果
9月定例会（9/5～13） ● 公平委員会委員の選任について ● 公平委員会委員の選任について ● 教育委員会委員の任命について ● 北海道市町村職員退職手当組合理約の変更について ● 陸別町営住宅設置条例の一部を改正する条例 ● 陸別町ケア付き一時住まい事業実施条例	同 意 同 意 同 意 可 決 可 決 可 決

第2回臨時会

令和5年8月25日に、第2回臨時会が開かれ、補正予算案1件を可決しました。

令和5年度 各会計補正予算

会計名	補正額	総額
一般会計	866万円	52億9,704万円

委員の任命

● 公平委員会委員に、新町2区の三好悟さん（再任）、東1条1区の中村昇道さん（再任）を選任することに同意しました。
 ● 教育委員会委員に、東1条1区の後藤和美さん（再任）を任命することに同意しました。

可決した意見書

● 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

議会の動き

【8月】

21日 総務常任委員会
 25日 議会運営委員会
 第2回臨時会
 議員協議会
 産業常任委員会

【9月】

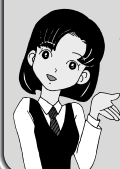
1日 議会運営委員会
 5日 9月定例会
 議員協議会
 総務常任委員会
 産業常任委員会
 6日 9月定例会
 産業常任委員会
 12日 9月定例会
 総務常任委員会
 議会運営委員会
 25日 9月定例会
 総務常任委員会
 管内行政視察
 （大樹町）

産業常任委員会
 管内行政視察
 （大樹町）

【10月】

29日 総務常任委員会
 （しらかば苑視察）
 24日 議会運営委員会
 （広報編集会議）
 総務常任委員会
 産業常任委員会

次回の定例会は12月に開催されます。詳しい日程等は議会事務局にお問い合わせ願います。皆さんの傍聴をお待ちしております。



陸別町議会 ホームページのご案内

【陸別町議会ホームページ】
<http://www.rikubetsu.jp/gikai/>